
随筆： 幼稚園児とみつ豆

梓沢何某

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

随筆： 幼稚園児とみつ豆

【Nコード】

N7671P

【作者名】

梓沢何某

【あらすじ】

日々のくらしの随筆です

私は喫茶店を冷やかすのが好きだ。

冷やかすといつても礼儀としてアメリカン（なければ普通の）と空腹で財布と時間に余裕があればナポリタンを頼むことにしている。

どんな喫茶店を冷やかすかというと、チェーン店ではなく個人経営の、おっさんおばさんの類が地域密着で経営しているやつで、地域密着のあまり、よそ者が入りづらい店がなおい。

こういう店でダラダラと時間を潰している人が羨ましい。

新聞読んでる爺さんがぶるぶるしながらピースの灰を落としている光景などなんとも牧歌的で好きだ。

午前中ちよつとだけ働いて午後はこうしてヒマを潰す、こういう生活スタイルに憧れる。豊かでなくとも憩いがあれば人生勝ち組だと思う。

「なべての頂に憩いあり」とはゲーテの言葉である。

こないだの夏の昼頃、たまたまこういう喫茶店を見つけてガラッと入ったら、扇風機に当たってたおばさんがえらいビクツとして血迷ったか「まだ準備中で、営業しておりません」など言う。

いや、しかと見たぞ。

営業時間 7：00～19：00

その日は諦めて大學に行ったけど、後日、日を改めて入ってナポリタンを頼んだ。このおかあさんの手作り感がたまらない。他人のおかあさんが握ったおにぎりを出されたような複雑な気持ちとせめぎあいつつ食すれば語り尽くせぬ滋味があるものだ。

こないだも行ったら、近所のおばあちゃんが女のお孫さんを連れ

ていらっしやっていて、幼稚園年中さんあたりでしょうか、鼻の下
てらてらさせて指なんか舐めてらっしゃる。

「ちゃん何食べようかね」

「…ケーキ」

「ケーキは無いわね、甘いのがいい？じゃ、すみませんみつ豆2つ」

持って来られたみつ豆2つ。

もちろん餡は入っていない。

女の子うんと甘いのを期待してたどたく口に運べば、とたんに
ムスツとして幼い眉に皺を寄せる。

おばあちゃんは店のおばちゃんと談笑中である。

出口の見えぬガールズストークにムスツとしたままフォークが進ま
ない女の子の顔。

こつこつものを見てニヨニヨするのが俺の趣味だったらしいのに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7671p/>

随筆： 幼稚園児とみつ豆

2010年12月31日19時30分発行